第39歩

「追悼：“怪童”中西太様」

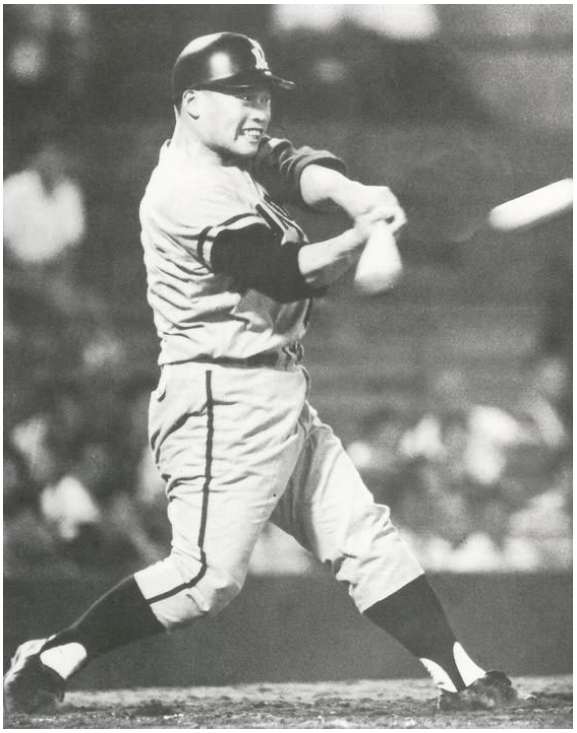
齢９０歳になろうというのに、いつも少年のような目を輝かせて「市長、元気か」と、にこやかに声をかけていただきました。去る５月１１日に亡くなられた元プロ野球選手の中西太様です。

このコラムの再開にあたり、辛く悲しい出来事を題材とすることにためらいがありましたが、どうしても一言追悼の言葉を述べさせていただきたく、筆を執りました。

中西太様は、高松第一高等学校で、春夏あわせて３度、甲子園に出場し、球場を沸かせる、力強い打撃から「四国の怪童」と呼ばれておりました。そのあだ名は生涯に渡り引き継がれました。

西鉄ライオンズに入団すると、高卒ルーキーとしては異例の、即レギュラーの座に定着し、史上最年少の２０歳で「トリプルスリー」（打率３割、ホームラン３０本、盗塁３０以上）を獲得したほか、４年連続を含むホームラン王５回、首位打者に２回、打点王に３回輝くなど、不滅の大記録を達成されました。

現役時代の中西様の、うなるスイングと打球の速さは桁外れで「遊撃手が、ジャンプして捕れそうな打球が、ぐんぐん伸びてホームランになった」など、強打の逸話は、枚挙にいとまがなく、その豪快な打撃で多くのファンを魅了しました。引退後も、打者育成の手腕が高く評価され、イチロー選手を始め、数多くの名だたる選手を育て上げた監督、コーチとして、プロ野球の発展にも御尽力されました。



色紙には、いつも「何苦楚（なにくそ）」という言葉が書かれてありました。「今の苦労が、将来の礎になる」といった趣旨で、その言葉を大切にされてこられた、ということです。自らを奮い立たせる中西様の呟きが聞こえるようです。本市では「“怪童„中西太記念コーナー」を、中西様が、生まれ育った松島町にあるこども未来館に開設しております。ぜひ一度足を運んでみて下さい。

改めまして、故“怪童„中西太様が、これまでずっと高松市民に夢と感動を与えてこられたことに敬意を表しますとともに、心からの御冥福をお祈り申し上げます。